

## 優秀賞

### 「ハチドリ的心」

静岡県 富士第一小学校 六年 望月瑠七

小さなハチドリの物語があります。山火事で他の大きな動物たちが我先にと逃げ出す中、ハチドリは小さなくちばしで水てきを運び、火を消そうとします。たった一羽で、がんばるハチドリに、

「そんなことをして何になるの？」

と動物たちはみんな笑いますが、ハチドリは、

「私は、私にできることをしているだけ。」と言うのです。

この話は、私が小学校に入学したときに、校長先生が朝礼でしてくれました。

「小さな親切」は、このハチドリのようなのです。ハチドリが運ぶほんの小さなひとしずくでも、たくさん集まれば大きな力になると思います。どんなに「小さな親切」でも、校長先生はほめてくれました。そして、子どもたち一人ひとりのために、きれいな折り紙でつるを折り、「ハチドリ賞」を用意してくれました。

私ははじめ、きれいなつるがかざられた「ハチドリ賞」がほしいために、誰かに親切にしたり、自分が人のためにがんばれることを見つけるのに、必死でした。いくつかの「ハチドリ賞」をもらい、うれしい気持ちでいっぱいになるときに、気づいたことがあります。がんばっている子どもたちのために、いそがしい時間の合間にせっせとつるを折っている校長先生の姿を想像しました。

小さなことでも、一生懸命に行う一人ひとりに「ハチドリ賞」をあげたい、と言った校長先生の想いがつるに折りこまれているのです。手にのせてもふわっと軽い折りづるに、とても大きな校長先生の想いがつまっているのを感じました。改めて「ハチドリ賞」をいただけることは、どれだけかけがえのないことなのかを知らなかった瞬間でもありました。

校長先生が小学校を退職されてからも、私の心の中には、いつもハチドリの想いがあり続けています。校長先生が、おくれた「ハチドリ賞」の数は、ハチドリが運んだ水てきの数のようにも思います。一人ひとりが、小さなことでも良い行いに気づけるようにと、水てきの代わりに一羽一羽つるを折った校長先生は、ハチドリのようなのです。

ハチドリの物語は、「私は、私にできることをしているだけ。」のセリフで終わっています。このあと、他の動物たちがどのような行動をとったのか、山火事がどうなったのかは、それぞれが想像する他ありません。

この物語にとっての災難は山火事でしたが、人によっては戦争、貧困、地球温暖化、またはもっと別の物だったりすると思います。問題が大きすぎて、私にできることは何もないと行動にうつさない人はたくさんいますが、それはまちがっていることをハチドリは教えています。たとえ、小さな力でも同じ思いの人がたくさん集まっていれば、大きな力になるのです。

6年生になった今も、校長先生に教わったハチドリ的心を忘れずに、自分にできる小さなことを見つけてがんばります。私が誰かのためにできる小さな行動がまわりに広がり、いつか大きな力になるように願います。